

軽い力で移動可能かつ小回りが利くベッド

特別養護老人ホーム 真森苑
作業療法士 高橋 敏弘

テーマ	軽い力で移動可能かつ小回りが利くベッドで介護士の負担軽減
概要	<p>高齢者施設等では車椅子に移ることのできない利用者をベッドごと移動する機会が多い。ベッドでの移動は重く力が必要であり、曲がる時の操作も壁にぶつからないようにすることが難しく、介護士等の負担となっている。自走可能なベッド、もしくは移動をアシストするロボットも開発・製品化されてはいるが、費用やメンテナンス、充電の手間等を考えると、より簡易な工夫で上記課題を解決できる製品のほうが現場では実用性が高いと思われる。</p>



ベッドのキャスターが小さく、押すときに力が入るし直進安定性も悪い。



居室の入り口狭いとベッドを入れるのが大変。

ベッド移動をアシストする装置すでに数社が開発している。

清水建設：医療用ベッドを搬送する際の労力を大幅に軽減する操舵アシスト装置

リーフ株式会社：ベッド搬送アシストロボット

大成建設：ベッドを病院内で移動させる際の電動アシスト機器

また、平成30年のライフサイエンス新技術説明会にて「一人で患者搬送が容易にできるベッド」を久留米大学医学部友枝 博先生が発表している。

これらの機器はベッドに装着して使用することになるが、介護の現場ではできるだけ簡易でメンテナンス等も最小限が求められる。

また一台の機器を複数のベッドで使うのではなく、個々のベッドに機能が求められる。

- ・ 都度装着ではないこと
 - ・ 充電等が必要ないこと
 - ・ 安価であること
- 例えば、夜間居室で不穩になった利用者を介護士の目の届くホールに移動させたいという状況ではより迅速に移動する必要があり、移動手段を楽にするための工程に時間はかけられない。また充電の管理等は逆に介護士等の負担増になる。

キャスターの大きさや数等の工夫で直進安定性と小回りできるようになるだけでも介護現場では負担軽減につながると思われる。